

平成29年度「宇北高等学校評価アンケート」まとめ

1 調査の概要

学校評価の一環として、本校を保護者、生徒、教職員はどうとらえているかを調査した。本年度の回答については A:大いにそう思う、B:そう思う、C:あまり思わない、D:全く思わない、の4つの選択

	生徒	保護者	教職員
回答者数	936	852	44
回答率	98.1 %	89.31 %	67.69 %
調査日	平成29年11月	平成29年11月	平成29年12月

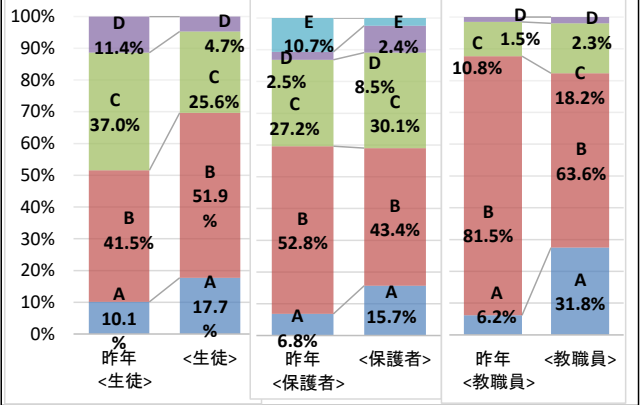
2 質問事項と集計結果

【 A,大いにそう思う B,そう思う C,あまり思わない D,まったく思わない E,わからない 】

【重点目標①】

学力の伸長

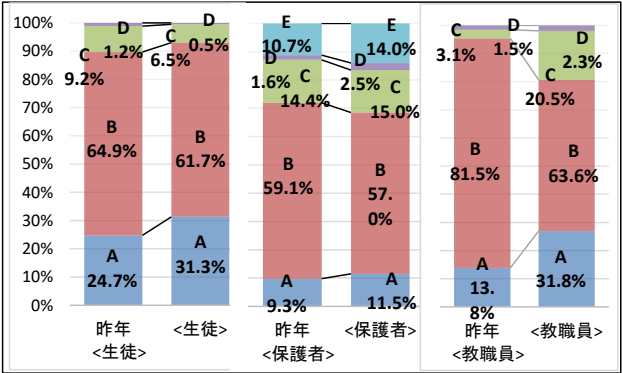
＜生徒＞	私は宇北高に入学して、学習意欲が向上した。 (h28まで)私は、宇北高に入学して学力が向上している。
＜保護者＞	宇北高に入学して、子どもの学習意欲が向上した。 (h28まで)宇北高の教育は入学した生徒の学力を伸ばしている。
＜教職員＞	本校の教員は、授業を通して、確実に学力を付けさせている。
質問の文言を変えたので、単純に昨年との比較はできないが、生徒のおよそ7割は高校で学習意欲が向上したと感じている。これに対し、子どもの学習意欲が向上したと思っている保護者は6割弱にとどまっている。保護者ではC「あまり思わない」とD「まったく思わない」を併せた否定的な評価は4割近くになり、生徒と保護者の認識は差が大きい。この結果を受けて、職員側でも積極的な評価が増えた一方で、課題として受け止めた評価も増えている。	



【重点目標②】

進路の実現

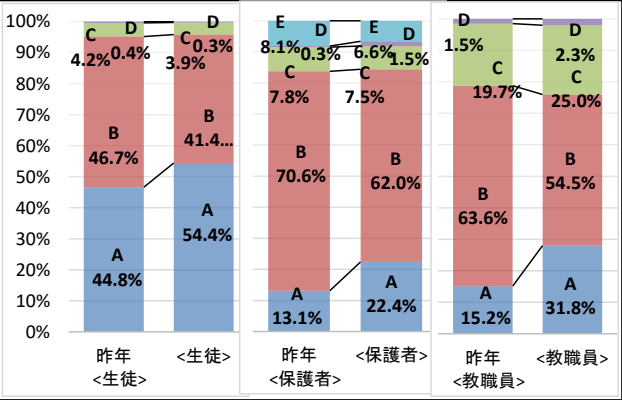
＜生徒＞	宇北高の先生は、生徒の進路について、生徒の適性を生かし、希望の実現につながる進路指導を行っている。
＜保護者＞	宇北高の先生は、生徒の進路について、生徒の適性を生かし、希望の実現につながる進路指導を行っている。
＜教職員＞	本校の教員は、生徒の進路について、生徒の適性を生かし、希望の実現につながる進路指導を行っている。
生徒は9割以上が肯定的に評価をしており、Aの「大いにそう思う」の割合が増えているのに対して、保護者の肯定的な評価の割合は昨年よりも減っている。生徒の評価を見れば適切な進路指導が行われているといえるが、保護者はもっと厳しく見ていることが窺える。	



【重点目標③】

ルール・マナーの遵守

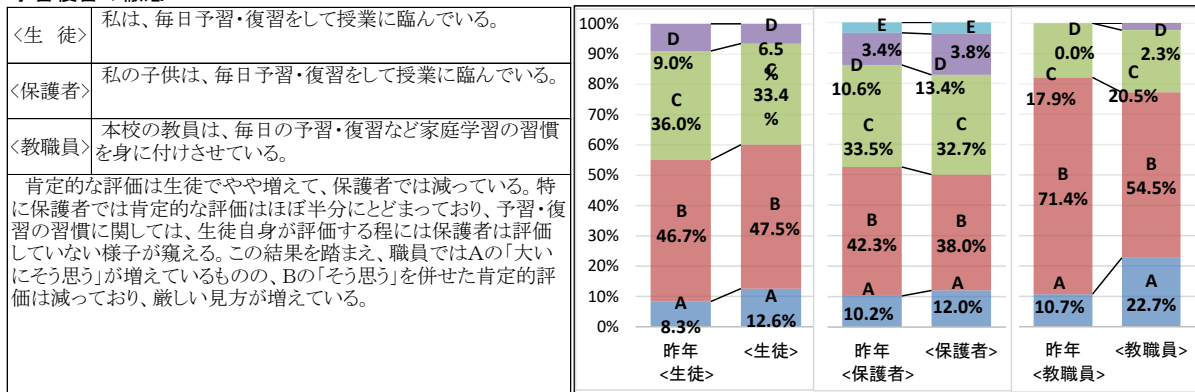
＜生徒＞	宇北高の先生は、生徒に対してルールやマナー（服装、遅刻、礼儀、交通安全、スマートフォン利用等）を守るよう指導に努めている。
＜保護者＞	宇北高の生徒は、校則や社会のルールを良く守っている。
＜教職員＞	本校の教員は、生徒に対してルールやマナー（服装、遅刻、礼儀、交通安全、スマートフォン利用等）を守るよう指導に努めている。
ルール・マナーの遵守に関する本校の指導に対しては、生徒、保護者、職員ともAの「大いにそう思う」の評価が増えている。生徒、保護者は概ね肯定的に評価しているが、職員では「もう少し指導を徹底させるべきだ」という意見も見られる。	



【 A,大いにそう思う B,そう思う C,あまり思わない D,まったく思わない E,わからない 】

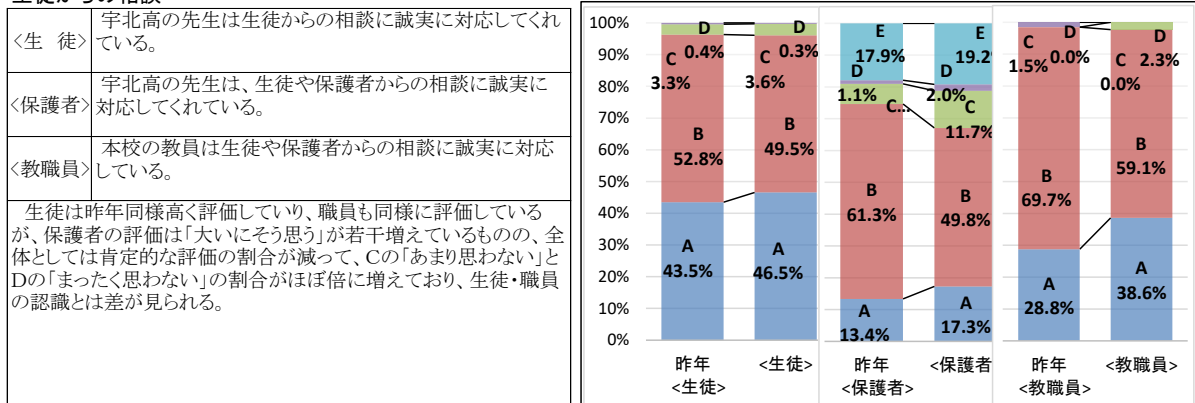
【学習指導】

予習復習の徹底



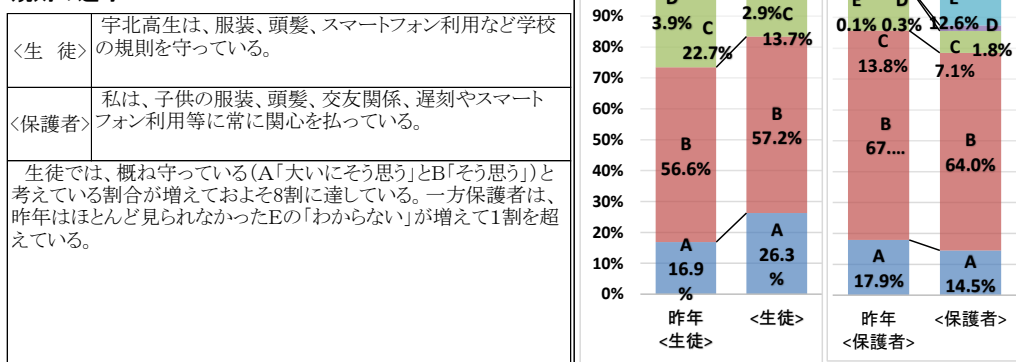
【生活指導 ①】

生徒からの相談



【生活指導 ②】

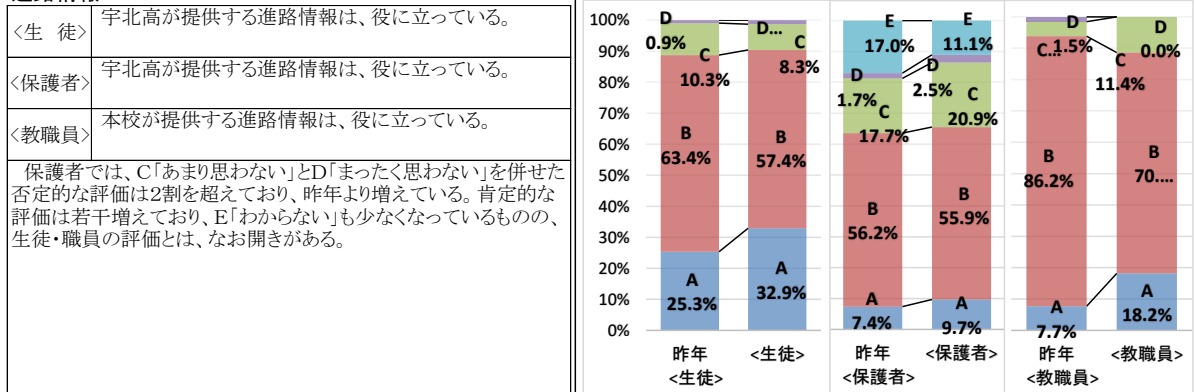
規則の遵守



【 A,大いにそう思う B,そう思う C,あまり思わない D,まったく思わない E,わからない 】

【進路指導】

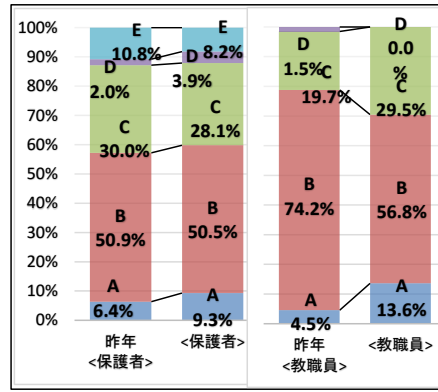
進路情報



【 情報発信 】

教育方針や情報の伝達

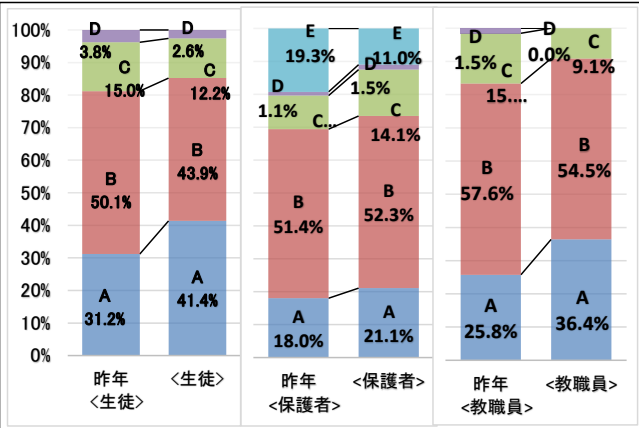
＜保護者＞	宇北高は、教育方針や学校の情報を保護者に積極的に伝えている。
＜教職員＞	本校は教育方針や学校の情報を保護者に積極的に伝えている。
	昨年よりは若干改善されたが、学校からの情報伝達に関しては、不十分と感じている保護者が多い。先の「進路情報が役に立っているか」を訊いた設問で保護者と生徒・職員の評価に差が見られたことも、必要な情報が十分に伝わって立かどうかに起因することも考えられ、再度、保護者が知りたい情報が何なのか、また、どのような手段で情報を発信するか、検討が必要であろう。



【 国際理解教育 】

内容の充実

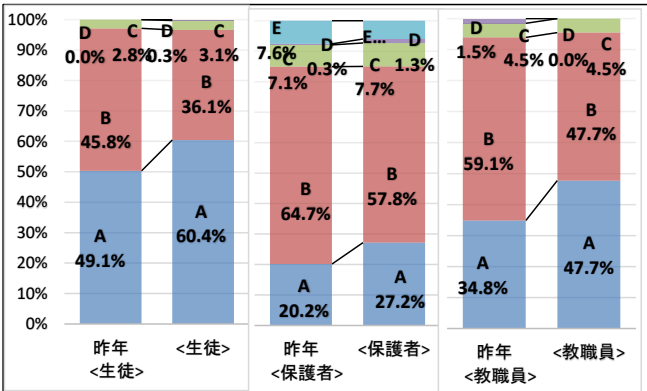
＜生徒＞	宇北高では、国際感覚を身に付ける、充実した国際理解教育が行われている。(h28まで) 宇北高の国際理解教育は他校に対して誇れる充実した内容である。
＜保護者＞	宇北高では、国際感覚を身に付ける、充実した国際理解教育が行われている。(h28まで) 宇北高の国際理解教育は他校に対して誇れる充実した内容である。
＜教職員＞	宇北高では、国際感覚を身に付ける、充実した国際理解教育が行われている。(h28まで) 宇北高の国際理解教育は他校に対して誇れる充実した内容である。
	国際理解教育については全般に肯定的な評価が増えており、特に生徒、職員でAの「大いにそう思う」が10ポイント程度増えた。これは、1・2年で国際理解教育の中心であるIEAのを大きく変えて、系統的で密度の濃い内容での実施を進め、実施時間も増やしたことに對する評価と考えられる。



【 部活動 】

活発さ

＜生徒＞	宇北高は、部活動・生徒会活動が活発に行われている。
＜保護者＞	宇北高は、部活動・生徒会活動が活発に行われている。
＜教職員＞	本校は、部活動・生徒会活動が活発に行われている。
	生徒、保護者、職員ともに肯定的な評価の割合が高い。A「大いにそう思う」とB「そう思う」を併せた評価は前年と大きな変化はないが、今年はAの割合がいずれも高くなっており、本校の部活動、生徒会活動は好意的に評価されていることが窺える。

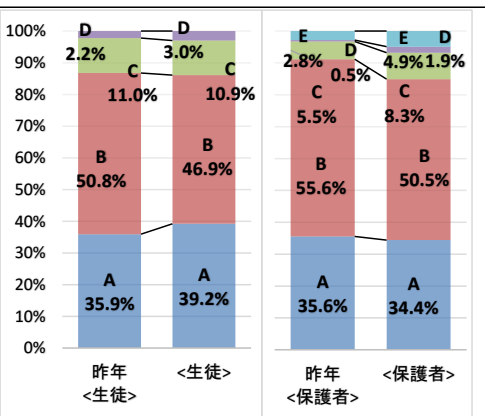


【 教育活動全般 ① 】

【 A,大いにそう思う B,そう思う C,あまり思わない D,まったく思わない E,わからない 】

宇北高生としての誇り

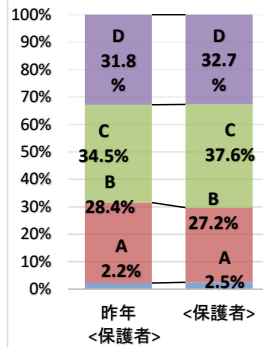
＜生徒＞	私は、宇北高の生徒であることに誇りをもっている。
＜保護者＞	私は、子供が宇北高の生徒であることに誇りをもっている。
	生徒はA「大いにそう思う」がやや増えており、B「そう思う」と併せた肯定的な評価は昨年とほぼ同じである。一方保護者側で、C「あまり思わない」とD「まったく思わない」を併せた否定的な評価、およびE「わからない」と評価を避ける割合が増えている。



【教育活動全般 ②】

ホームページ

＜保護者＞	宇北高のホームページを見ている。
「積極的に見ている」「時々見ている」の割合は3割程度である。学校の広報と情報発信の手段として、HPの活用をもっと工夫改善して、進んで見てもらえるホームページの作成を心掛ける必要がある。	



D, 見ていない

C, 1～2回見たことがある

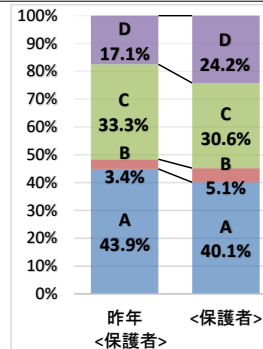
B, 時々見る

A, 積極的に見ている

【教育活動全般 ③】

PTA総会・学年保護者会への参加

＜保護者＞	私はPTA総会や学年保護者会に参加した。(授業参観のみを含む)
残念ながら不参加の割合が増えている。	



D, どちらも不参加

C, 学年保護者会のみ参加した

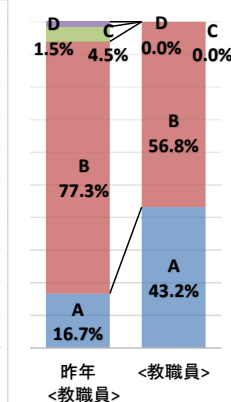
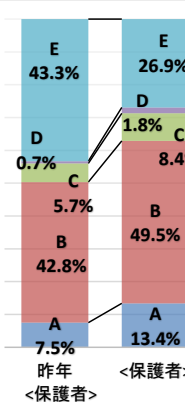
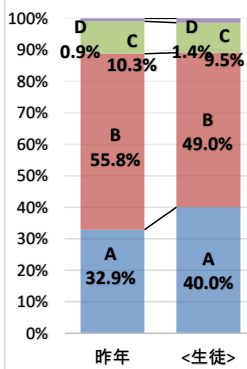
B, PTA総会のみ参加した

A, 両方参加した

【いじめ対応】

【 A, 大いに思う B, そう思う C, あまり思わない D, まったく思わない E, わからない 】

＜生徒＞	宇北高は「いじめを許さない学校づくり」に努めている
＜保護者＞	宇北高では、いじめに対して、「基本方針」を定めて、「いじめを許さない学校づくり」を進めている。 (h28まで)宇北高は、「いじめ」に対し、「基本方針」に基づいてしっかり対応している
＜教職員＞	本校は、基本方針に基づいて「いじめを許さない学校づくり」に努めている。 (h28まで)本校は、「いじめ」に対し、「基本方針」に基づいてしっかり対応している
質問の文言を昨年までとは変えたため、単純な比較はできないが、生徒、保護者、職員ともに肯定的な評価の割合が増えた。質問文の表現を変えたことで、保護者にとっては判断して評価しやすくなり、E「わからない」が大きく減った。「基本方針」は年度当初に全学年配付しており、「いじめ」に対する学校の姿勢についてはもっと積極的な広報も必要であろう。	



3 全体まとめ

- ◇保護者対象のアンケートでは、質問で文言を変えたことで判断しやすくなり、全体的にE「わからない」の答えが減った。その分C「あまり思わない」、D「まったく思わない」の否定的な回答が増えた項目もあり、関係する部等で要因と対応を検討したい。
- ◇一般的には本校の教育活動について概ね肯定的な評価が多いが、生徒・職員と保護者の間で評価に差が見られる項目があり、とりわけ進路や学習に対して、保護者は厳しい見方をしている。一方、これは学校からの情報発信にも関わると考えられ、ホームページの閲覧やPTA総会等参加の減少からも窺えるように、学校の教育活動に関わる必要な情報、有効な情報を、どのように効果的に発信していくか、検討が必要であろう。